

2018年度から「統一試験日」の教養試験が変わります

地方公共団体の93.5%の採用試験問題を作成している「公益財団法人 日本人事試験研究センター」から、2018年度試験のリニューアルが発表されています。

試験への影響

・新試験が実施されるのは、「統一試験日」のみ

2018年度は統一試験日(7/22、9/16、10/14)のみ、新試験を実施。統一試験日以外は、現行通りの試験が行われます。

・対象は市町村の受験者が中心

国家公務員/東京都/特別区は日本人事試験研究センターの問題を使用していないため、例年通りの試験が予想されます。

・難度は現行試験と同程度

多様な人材の確保や民間企業受験者の取り込みを狙い、基礎力だけを問う「Light」が新設されるなど、難度は現行試験と同程度かやや下がると予想されます。出題科目や配分の変更も予定されています。

統一試験日に受験される方は、念のため新試験の概要を押さえておきましょう！

新試験の特徴

各試験の特色

Standard 〈標準タイプ〉

I : 大卒向け、II : 高卒向け

(知識分野 20 題/知能分野 20 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

Logical 〈知能重視タイプ〉

I : 大卒向け、II : 高卒向け

(知識分野 13 題/知能分野 27 題、五肢択一式、解答時間 120 分)

Light 〈基礎力タイプ〉

人物重視試験、技術系職種や資格免許職種向け

(社会への関心と理解 24 題/言語的な能力 18 題/論理的な思考力 18 題、四肢択一式、解答時間 75 分)

出題科目の変更

Standard/ Logical 共通

・これまでと比べて時事を重視し、社会的に幅広い分野の題材(ICT、環境問題、社会保障など)が出題されます。

・「古文」「哲学・文学・芸術等」「国語(漢字の読み、ことわざ等)」の出題はありません。

Logical

・知能分野(文章理解、判断・数的推理、資料解釈)が重視されます。知識分野での「自然に関する一般知識」の出題はありません。